

「美しい」と感じる心はどこから来るのだろうか。野を越え、山を越え、海を越え、時を超え、そして私たちの五感を超えて。現在ここにあるものへの反応だけでなく、過去の記憶のそのまた奥からやって来るものだと思う。私たちは、現在を生きると同時に、未来を生きる人たちの美意識に大きく関与することになる。その意味で、「美しいやまぐちづくり」は、美しい未来のための大きな宿題だと感じている。

具体的に、自分に何ができるだろうか。まず、自らライフスタイルを美しい暮らしに近づけていくことはできる。ゴミを減らす。清掃する。外から見える我が家を意識する。景観や環境に配慮していないところのモノは買わない。1ヶ月の、1年の数日を、景観保全や里山保全のためのボランティアにあてる。美しい地域づくりへの関心を持ち続ける。そんな仲間たちとつながる・・・。

とはいえ、「美しい」と感じる心は人それぞれだ。自分の景観領域を飛び出したとたん、問題は複雑になる。色彩の氾濫、看板の乱立、殺伐とした街並み、手が入らなくなって荒れる里山・・・。地域は美の未来予想図を必要としている。そして、どれも産学官民の協働がなければ解決へは至らない。個人からのアプローチと地域総出のアプローチ。どちらの現場にも一実践者として関わり続けたい。